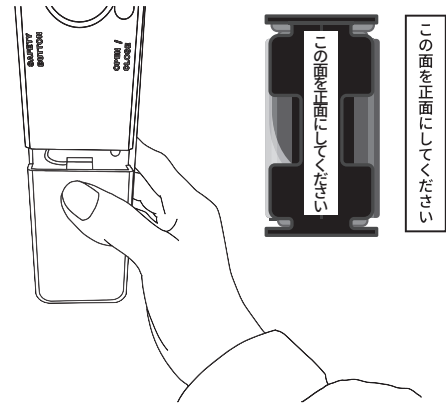


LC-505TA-D 取付説明書

(5) 電池を挿入し電池カバーを閉じる。



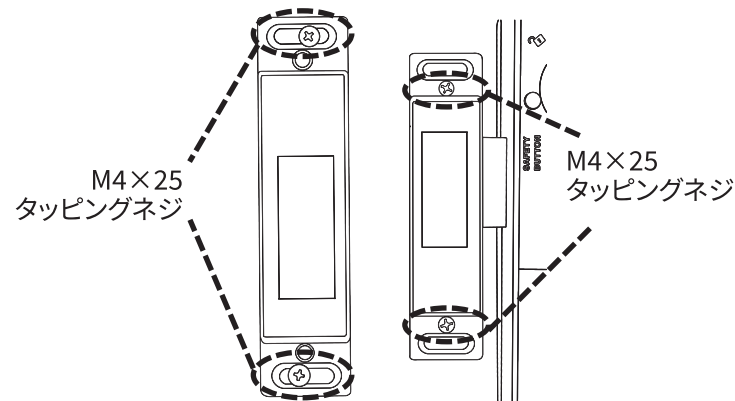
- 電池カバーを開けて、電池ボックスを取り出し単三電池4本をセットします。シールを正面に収めてください。
- ※必ずボックスをもって取扱ってください。電池を入れてぶら下げるとケーブルが破損する恐れがあります。OPENクローズボタンで動作を確認してください。
- ※接続ケーブルの収納と電池ボックスの向きに十分注意して取り付けてください。

(6) 室内機のセンサー位置とストライクの向きを確認する。



オートロック設定で運用する場合、ストライクに内蔵されたマグネットと本体のマグネットセンサーの位置を正しく合わせる必要があります。設置前にストライクの向きを確認し、適切に配置してください。マグネットはストライクの裏側に内蔵されています。

(7) ストライクの取付。 ストライクをネジで固定する。



- ストライク外側のネジを2点仮止めし、デッドボルトがストライクにスムーズに収まることを確認してください。動作確認後、4点のビスをしっかりと固定してください。

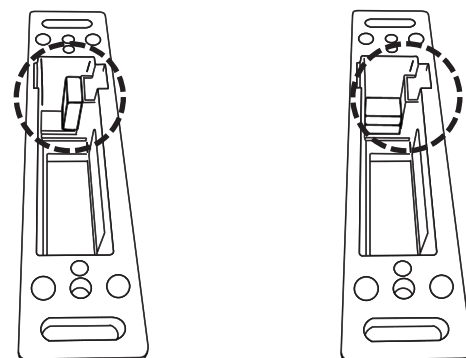
- ※完成後は室内側から動作確認をしてください。
- ※本体とストライクの距離が離れすぎると、オートロックセンサーが正常に検知できません。数ミリの位置ズレでもオートロックが作動しない場合があります。この場合、同梱のマグネットを追加でストライクに装着することで解決する可能性があります。詳細については、下記の確認事項をご確認ください。

オートロックにならない場合の確認事項

- ①設定を確認する。
初期設定では手動ロック設定になっています。オートロックを使用する場合は、設定をオートロックに変更してください。
- ②ストライクの向きを確認する。
オートロック設定で運用する場合、ストライクに内蔵されたマグネットと本体のマグネットセンサーの位置を正しく合わせる必要があります。設置前にストライクの向きを確認し、適切に配置してください。マグネットはストライクの裏側に内蔵されています。
- ③ストライクと本体との距離を確認する。
本体とストライクの距離が離れすぎると、オートロックセンサーが正常に検知できません。数ミリの位置ズレでもオートロックが作動しない場合があります。この場合、同梱のマグネットを追加でストライクに装着することで解決する可能性があります。ストライクの設置方向によって、マグネットを装着する向きが異なるため、右図のイラストを参考に正しく装着してください。

ストライク取付方法：I型の場合 ストライク取付方法：L型の場合

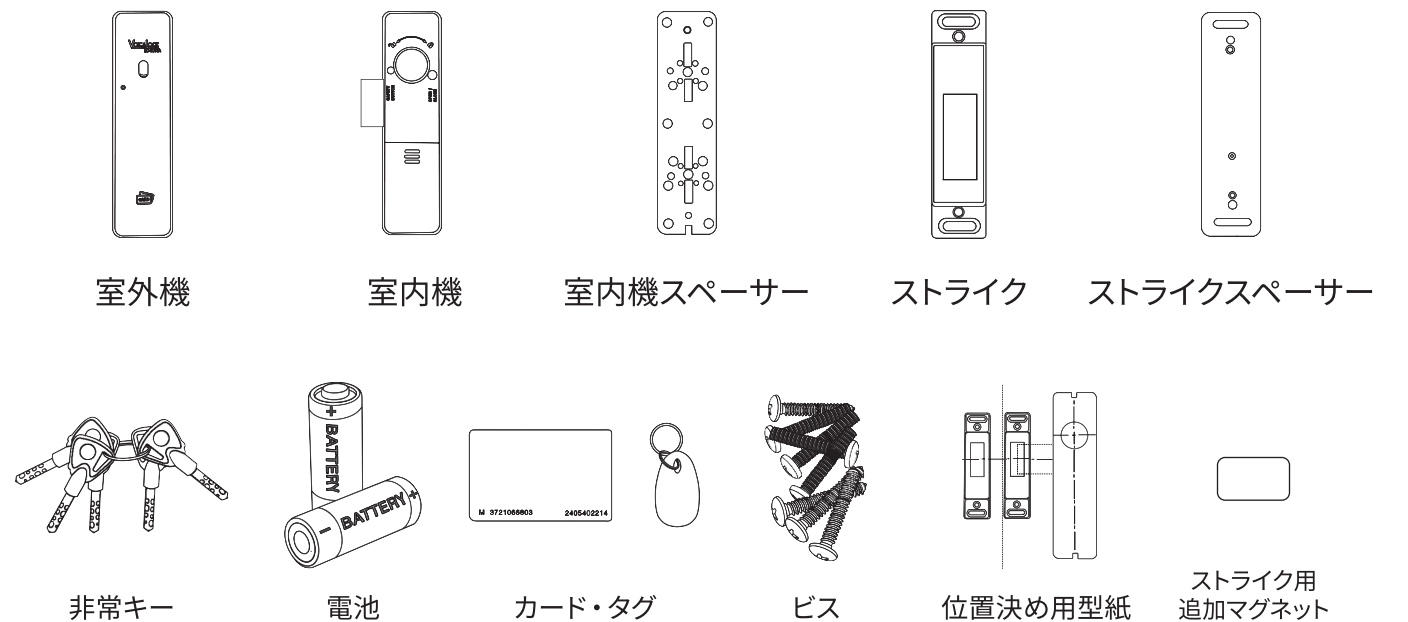
ストライク側面にマグネットを追加する ストライク背面にマグネットを追加する



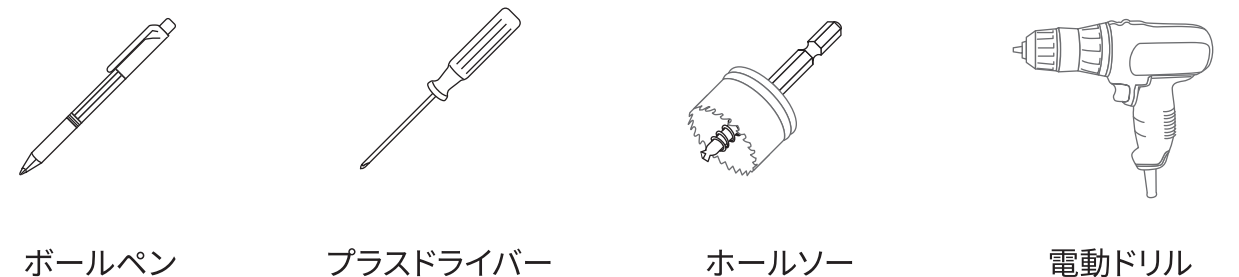
⚠ 注意事項

- 取付を行う前に、必ずこの取付説明書をよくお読みのうえ正しく作業を行ってください。
- ケーブルの挟み込み等による、圧迫・断線には特に注意してください。
- 設置後は、ドアを開けたまま電池を挿入し動作確認を行ってください。
- 施工方法をよくご理解・ご確認の上、施工をしてください。万一、不適切な施工により生じた損害や逸失利益、第三者からのいかなる請求に対し、当社では一切責任を負いかねますのでご了承ください。

製品梱包品



取付の際に必要な道具



1 扉のパターンごとの位置決め (注意点)

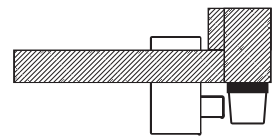
LC-505TA-Hは外開き・引き戸専用、LC-505TA-Dは開き扉専用です。
 設置の際は、同梱されているスペーサーを使用して位置を調整してください。
 必要に応じて追加のスペーサーが必要になる場合があります。扉加工を行う前に必ず位置合わせを確認してください。

位置決めの注意点

※注意：本体とストライクの距離が離れすぎると、オートロックセンサーが正常に検知できません。設置前に型紙を使用して位置を調整してください。

●内開き①

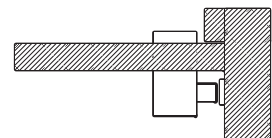
ストライク
取付方法：I型



※ストライク側に付属スペーサーが必要です。(2mm+2.5mm)

●内開き②

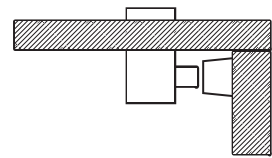
ストライク
埋込型



※ストライクはオプションの埋込用を別途お求めください。
 ※枠側に埋込加工が必要になります。

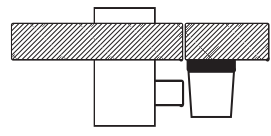
●外開き①

ストライク
取付方法：L型



●外開き②

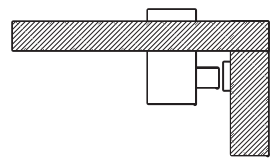
ストライク
取付方法：I型



※ストライク側に付属スペーサーが必要です。(2mm+2.5mm)

●外開き③

ストライク
埋込型



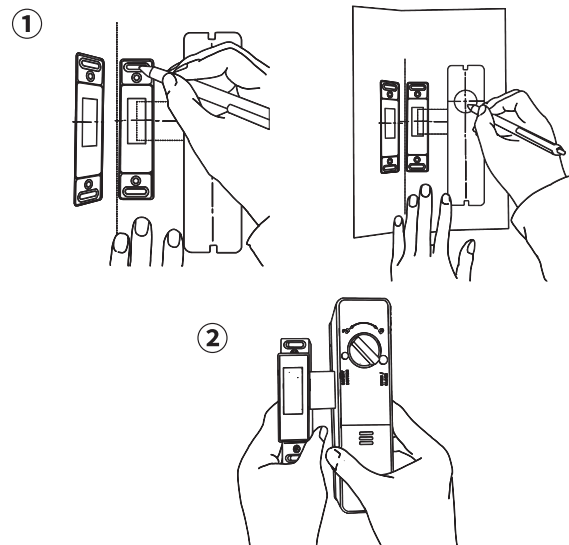
※ストライクはオプションの埋込用を別途お求めください。
 ※枠側に埋込加工が必要になります。

2 型紙の使用方法

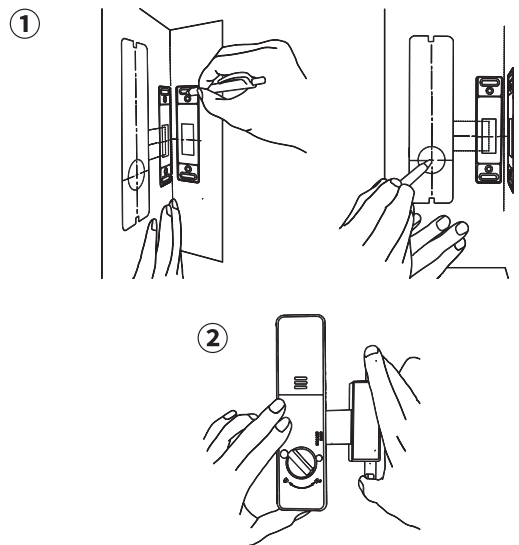
室内機とストライクの位置決めには、同梱の設置型紙を使用してください。
 位置決めには、スペーサーが必要になる場合がありますので、上記イラストを事前にご確認ください。
 ストライクの取付方法がL型の場合は、谷折りして位置を調整してください。
 設置型紙をマスキングテープなどで固定し、実際に製品を当てながら、以下の点を確認してください。

- ・ストライクと室内機が干渉しないか
- ・デッドボルトが正しく収まるか

ストライク
取付方法：L型

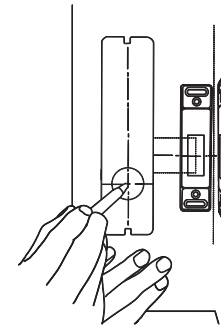


ストライク
取付方法：L型

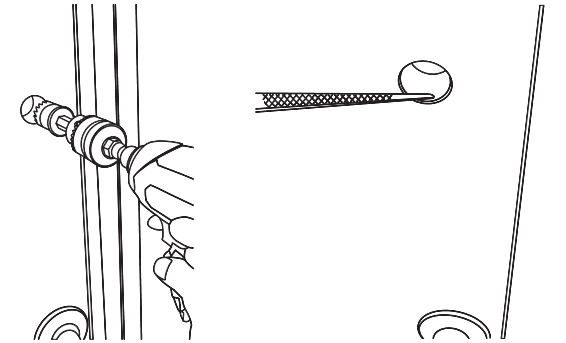


3 本体、ストライクの固定方法

(1) 穴を開ける中心に印をつけ穴を開ける。

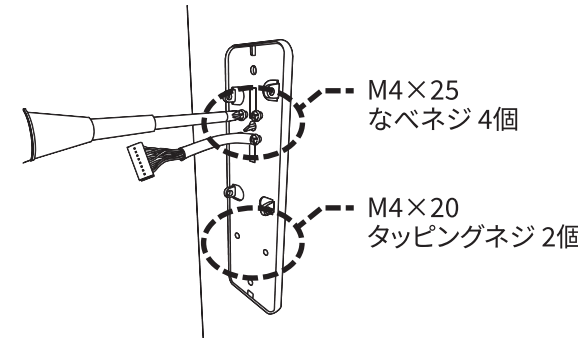


- 型紙にて合わせて、室内機側の穴開け位置に印をつけます。
- ※テープなどで仮止めし、位置に問題がないかを本体などを使い確認をしてください。

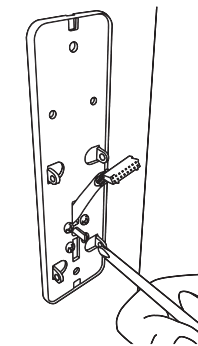


- 印の位置に、室内側から室外側へ直径38mmの貫通穴を開けてください。穴の位置がズレると正常に取り付けできなくなるため、ズレないように十分注意して作業してください。
- ※動作不良の原因になります。穴を開けた後は、切り口をヤスリなどで削ってください。ケーブルが触れて断線する恐れがあります。

(2) 開けた穴からケーブルを通し、室外機をはめ込む。室内機固定プレートをネジで固定する。

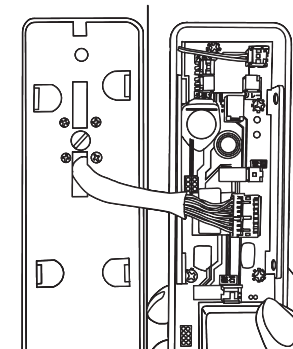


- ※左勝手 (テールピース側が上)
- ※右勝手 (テールピース側が下)



- ケーブルが貫通穴の縁で断線しないように注意してください。
- 室外機のシリンダーの4点のネジ穴を使って固定します。固定の際には、シリンダーのテールピースが中央の穴に入るようにしてください。
- ※固定の際はネジを閉めすぎると室内機固定プレートが変形し、不具合の原因になりますので注意してください。

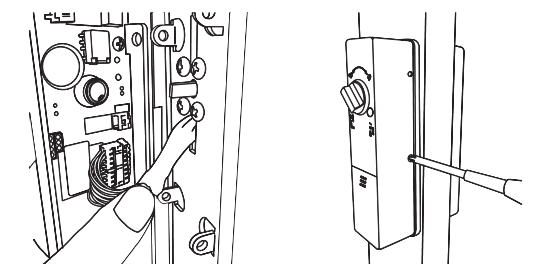
(3) コネクターを室内機裏の差込み口に差し込む。



- コネクター差し込みの際にはしっかり奥まで差し込んでください。
- ※ピンが曲がったりする場合がありますので丁寧に差し込みます。

(4) 室内機を固定プレートにかぶせてネジで固定する。

- 室外機のケーブルは電池ケース側に曲げて収めます。
- ※反対側に曲げると動作不良の原因になります。



- 室外機シリンダーテールピースをサムターンに差し込み、室内機をはめ込み左右4点のネジ (※M4x8の皿ネジ) で固定してください。
- ※固定後、非常キー、サムターンを回して動作確認をしてください。